



ミネベア株式会社決算説明会

2003年3月期中間決算

2002(平成14)年11月15日

代表取締役社長 山本 次男

2003年3月期中間期 連結業績サマリー

(単位:百万円)	2002年3月期		2003年3月期	前年 上期比 伸び率	上期 従来予想	対計画
	上期	下期	上期			
売上高	136,882	142,462	137,249	+0.3%	142,000	96.7%
営業利益	12,496	9,476	10,176	-18.6%	10,000	101.8%
経常利益	8,952	7,043	7,667	-14.4%	7,300	105.0%
当期純利益	4,384	914	2,543	-42.0%	3,600	70.6%

2003年3月期中間期の業績は、売上高1,372億円、営業利益101億円、経常利益76億円、純利益25億円でした。

前年中間期と比較すると、売上はほぼ横這い、利益は減少致しました。しかし、純利益以外は期初の計画をほぼ達成しました。売上対計画比の未達分は大半が為替変動の影響によるものです。

純利益については、英国電源開発拠点であるミネベアエレクトロニクス(UK)の閉鎖、法人税および法人税等調整額が当初見込みより増加したことが影響しました。

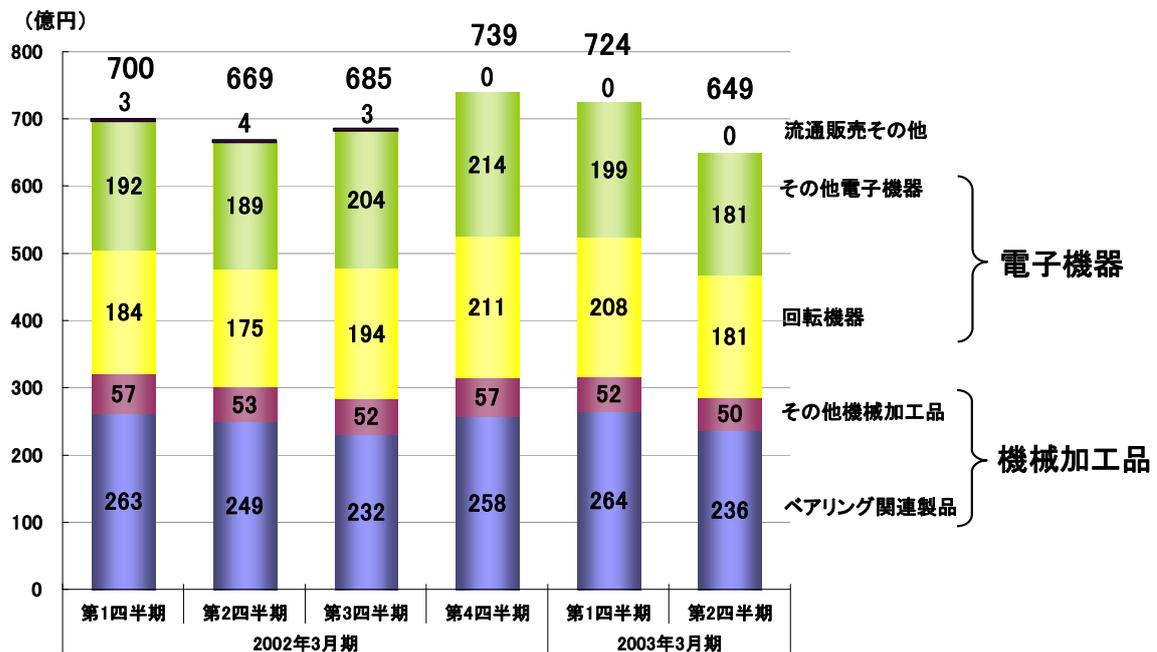
中間期 セグメント別実績

(単位:百万円)	2002年3月期		2003年3月期	前年 上期比 伸び率	上期 従来予想	対計画
	上期	下期	上期			
〔売上高〕						
機械加工品	62,195	59,830	60,309	-3.0%	59,450	101.4%
ベアリング関連製品	51,188	48,925	50,058	-2.2%	49,100	102.0%
その他機械加工品	11,006	10,905	10,251	-6.9%	10,350	99.0%
電子機器	73,978	82,325	76,940	+4.0%	82,550	93.2%
回転機器	35,917	40,523	38,933	+8.4%	45,300	85.9%
その他電子機器	38,062	41,800	38,005	-0.1%	37,250	102.0%
流通販売ほか	709	307	—	—	—	—
合計	136,882	142,462	137,249	+0.3%	142,000	96.7%
〔営業利益〕						
機械加工品	12,564	9,571	9,163	-27.1%	9,800	93.5%
電子機器	△74	△88	1,013	—	200	506.5%
流通販売ほか	6	△6	—	—	—	—
合計	12,496	9,476	10,176	-18.6%	10,000	101.8%

営業利益については、機械加工品が前年上期より減少しました。

一方、電子機器は昨年の赤字から一転して黒字転換し、期初計画も大幅に上回りました。

部門別売上高 四半期ベース



3



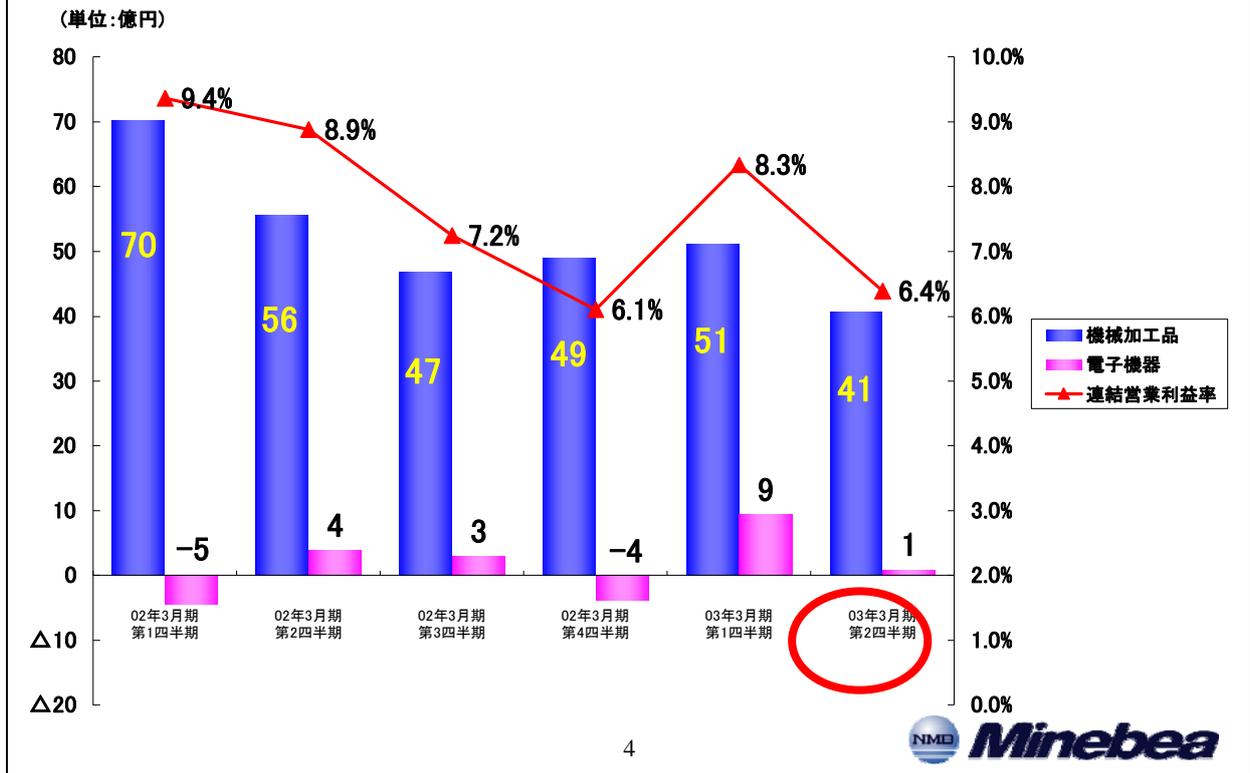
<機械加工品>

ボールベアリングが第1四半期は4月・5月と売上を大幅に伸ばしました。上期後半は若干減少したものの底固い動きで推移しました。航空機向けのベアリングの売上が第1四半期から更に第2四半期は一段と減少致しました。ピボットアッセンブリーは、価格競争の激化により、価格が当初の予想以上に低下致しました。

<電子機器>

ファンモーターが大変好調でした。一方、スピンドルモーターは4月・5月の好調から一転して、6月以降は大手客先の生産調整の影響により落ち込みが顕著になりました。その他の製品につきましては、期後半、情報通信機器関連市場の低迷の影響を受けて売上が伸び悩みました。

部門別営業利益 四半期ベース



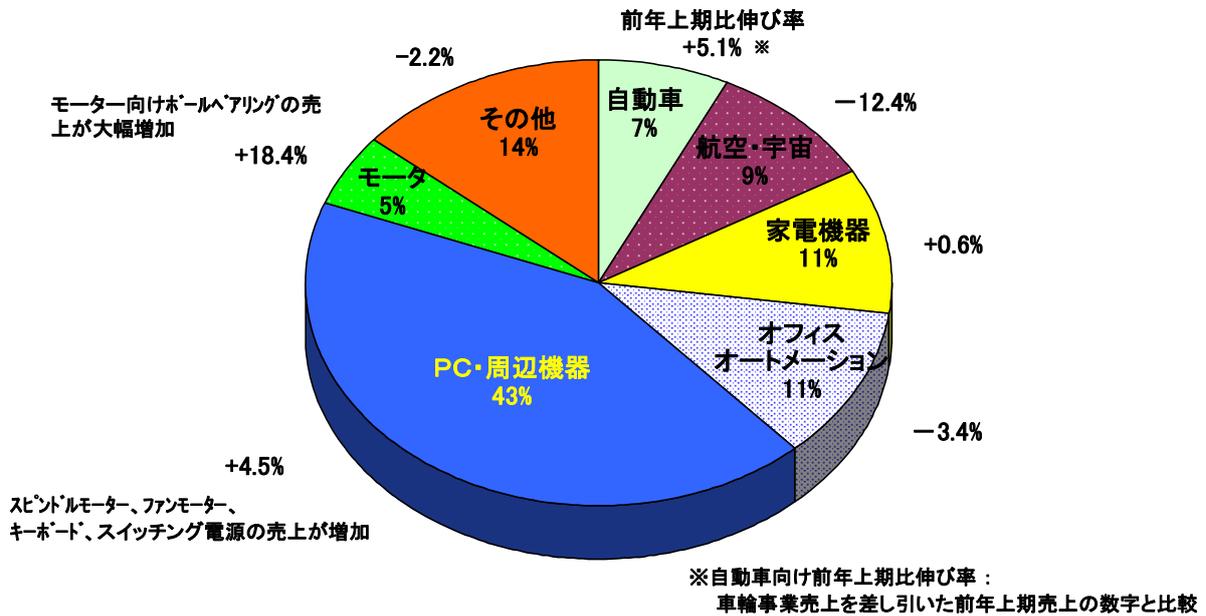
<機械加工品>

第2四半期の営業利益低下の背景は、売上同様、米国の航空機向けベアリングの収益の低下と、ピボットアッセンブリーの価格の下落でありました。ボールベアリングは、第2四半期の売上減にもかかわらず、利益が横這いで推移しました。増産効果と効率向上により利益率は下がっていません。逆に、利益率は第1四半期と比べて第2四半期にかけて改善されています。

<電子機器>

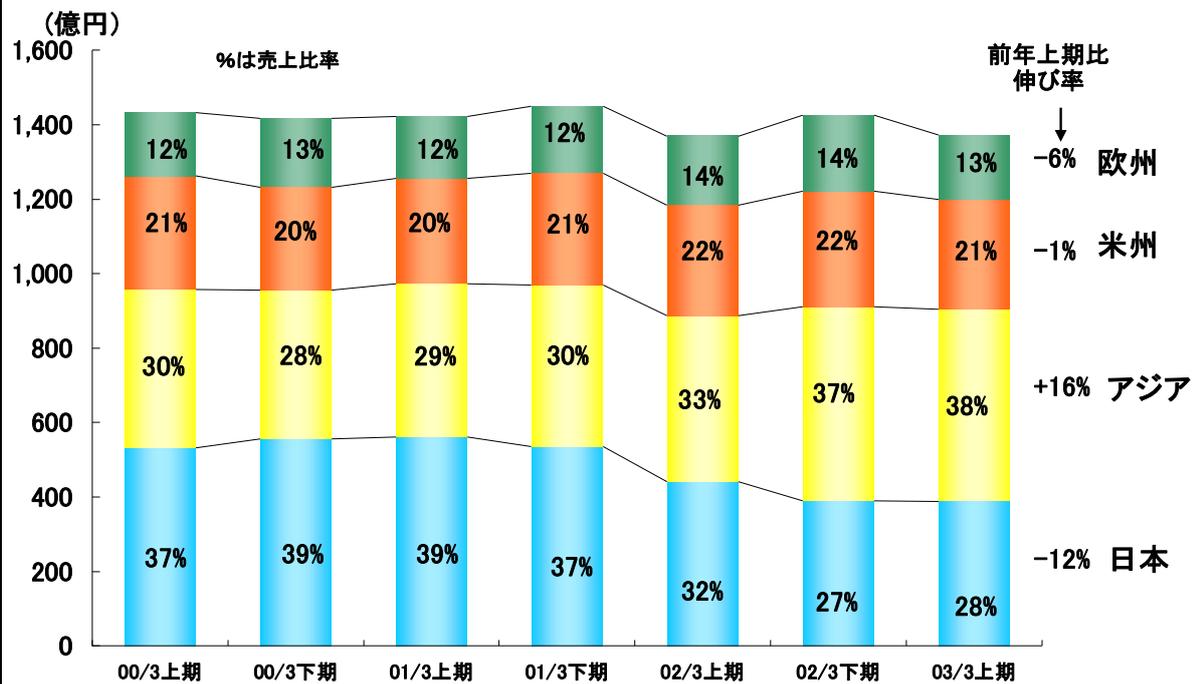
第2四半期のスピンドルモーターの減産が減益の大きな原因となっています。また、キーボードにおいて一部製品の納期遅れによる航空機輸送代の発生等がマイナスの要因となっています。しかし、ファンモーターの売上が好調で、セグメント全体の利益を下支えしました。第2四半期は減益となりましたが、第3四半期以降は利益を回復させていくものと見えています。

中間期 用途別売上高(全製品)



スピンドルモーター、ファンモーター、キーボード、スイッチング電源の売上が増加したため、PCおよび周辺機器向け売上が増加致しました。モーター向けベアリングの売上が大幅に増加した一方、航空機向けが減少しました。

中間期 地域別売上高推移



6

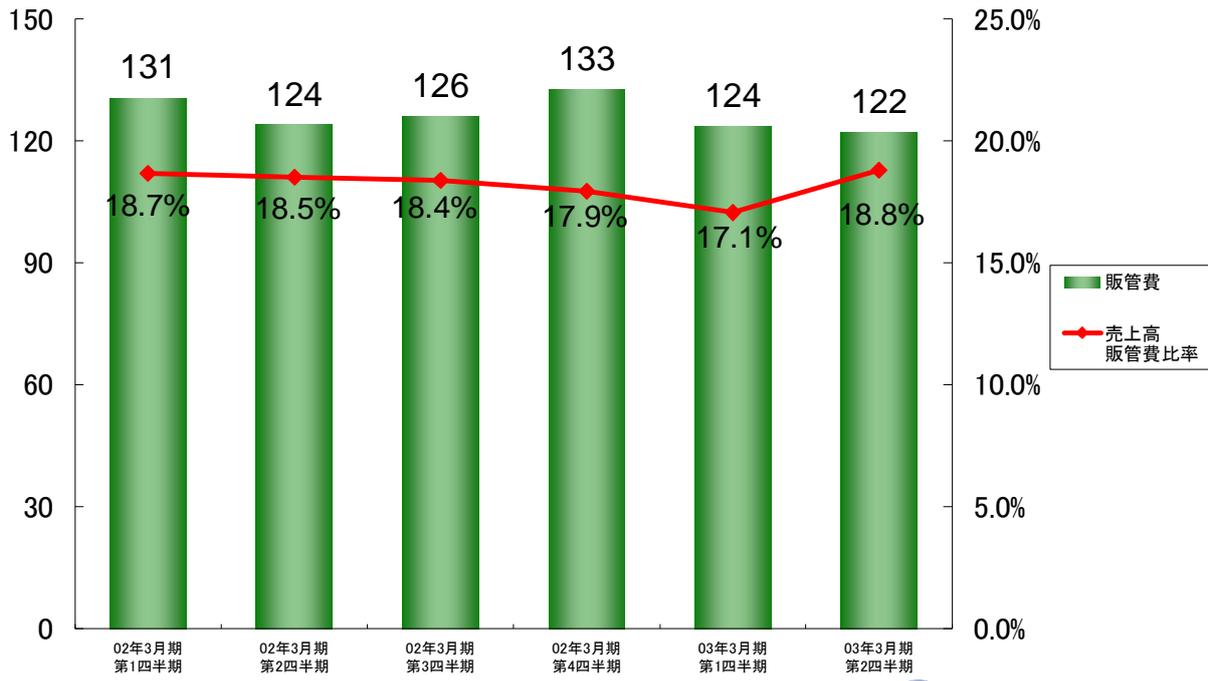


前年上期との比較では、国内売上は12%減少致しました。一方、アジアでの売上は16%増の二桁の伸びとなり、特に中国エリアが40%以上の伸びを示しています。当社ユーザーが、国内工場から中国を中心とするアジア地域へ量産拠点を移転していることが明らかです。しかし、ベアリングを中心とした拡販の成果もあり、国内売上の急激な落ち込みに歯止めが掛かってきています。

米州は航空機用ベアリングの売上が減少しましたが、キーボードの売上が好調であった為、全体では1%の減少に止まりました。

販管費推移

(単位: 億円)

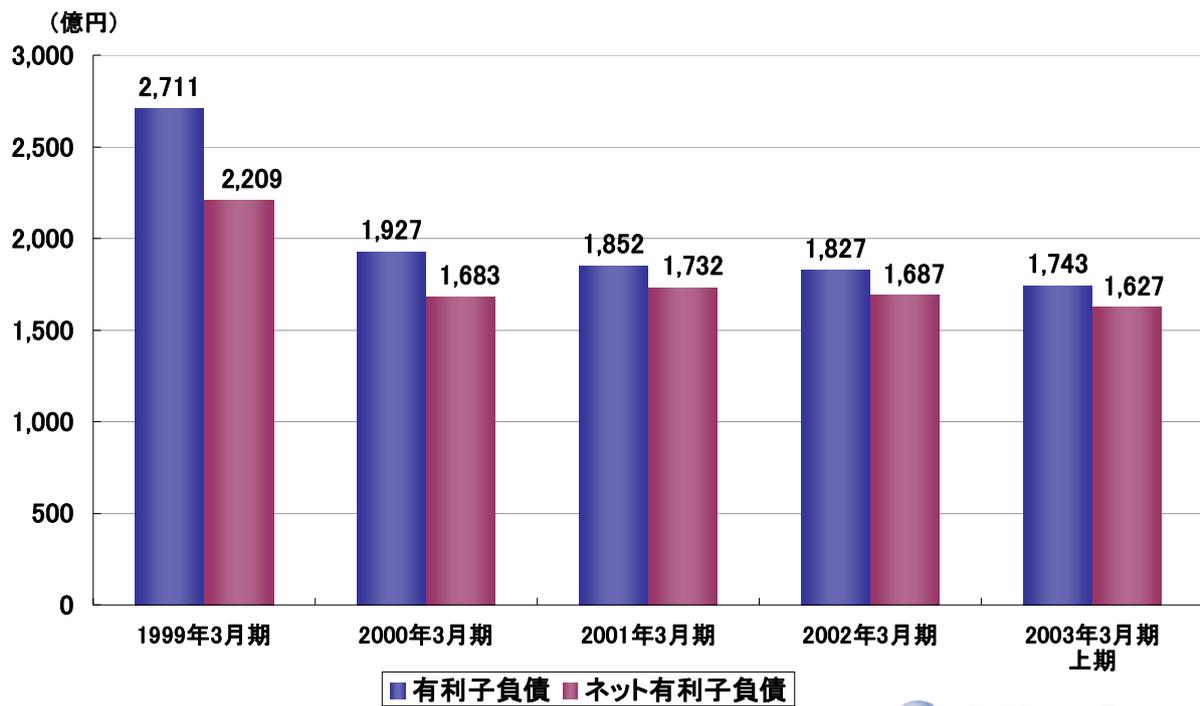


7



昨年11月に業務改革委員会を設置し、販管費の削減に取り組んでいます。キーボードの荷造運賃費が、通常発生しない一時的な費用として4億5,000万円発生したにもかかわらず、第2四半期も絶対金額ベースの販管費は低下しています。下期の販管費は230億円まで削減し、対売上比率は17.1%まで改善する見込みです。

有利子負債推移



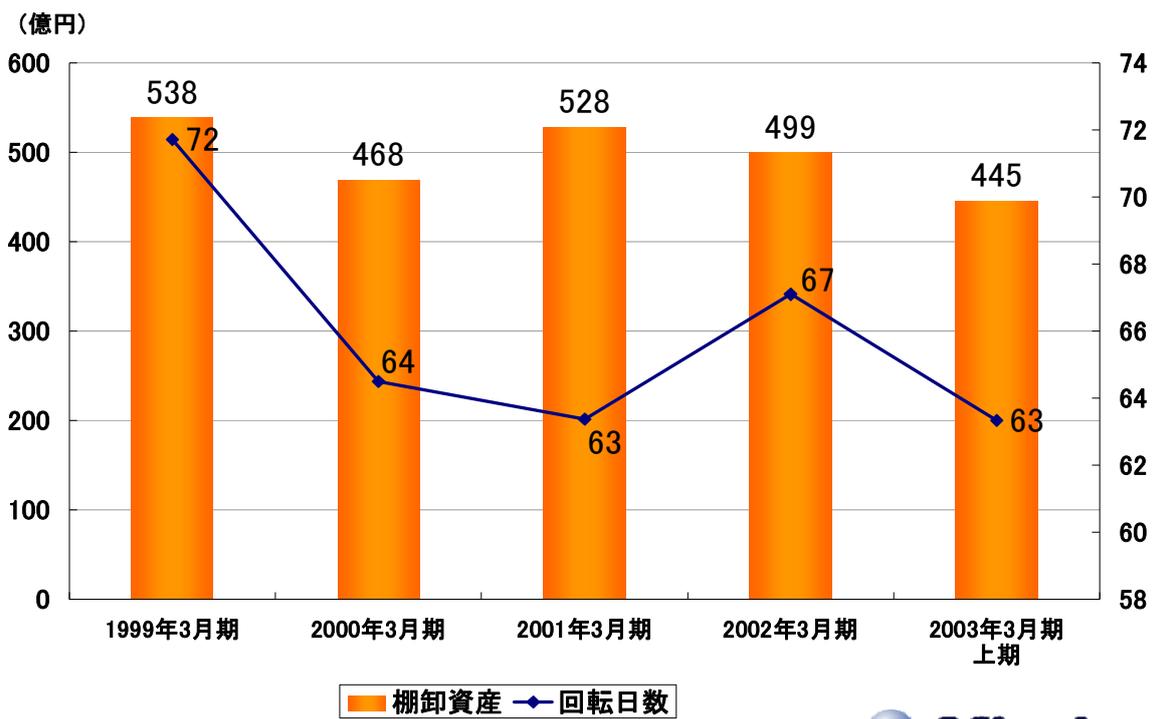
8



上期は借入金を60億円返済致しました。通期は、計画に比べ業績の下方修正および設備投資額の増額修正を致しましたが、期初の削減目標額の100億円には変更はありません。

毎期着実にプラスの営業フリーキャッシュフローを上げることにより、財務体質の改善が進んでいます。

棚卸資産推移



上期は棚卸資産を大幅に削減致しました。上期は54億円を削減しましたが、下期は更に40億円削減する計画です。

2003年3月期通期業績予想

(単位:百万円)	2002年3月期			2003年3月期			伸び率 通期予想対 前年比	通期 従来予想	対計画
	上期	下期	通期	上期	下期 (新予想)	通期 (新予想)			
売上高	136,882	142,462	279,344	137,249	134,751	272,000	-2.6%	288,000	94.4%
営業利益	12,496	9,476	21,972	10,176	11,324	21,500	-2.1%	24,000	89.6%
経常利益	8,952	7,043	15,995	7,667	8,833	16,500	+3.2%	18,500	89.2%
当期純利益	4,384	914	5,298	2,543	3,957	6,500	+22.7%	10,000	65.0%

通期見通し

売上 2,880億円を 2,720億円に、
 営業利益 240億円を 215億円に、
 経常利益 185億円を 165億円に、
 純利益 100億円を 65億円に修正致しました。

当初の下期計画は、夏以降の市場環境が大きく改善すると予想して立案致しましたが、下期も上期同様に厳しい事業環境が継続する見込みの為、この様な修正を致しました。しかしながら、戦略製品については別途ご説明致します通り対策を打っており、既に効果が現れてきています。

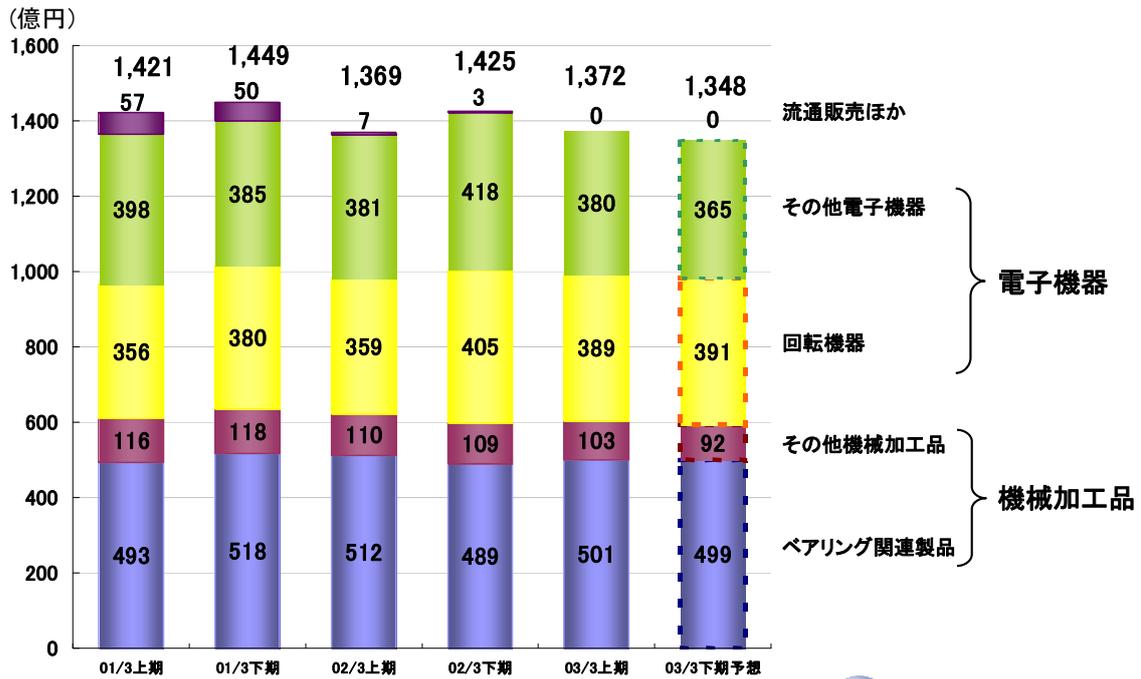
通期セグメント別予想

(単位:百万円)	2002年3月期			2003年3月期			伸び率 通期予想対 前年比	通期 従来予想	対計画
	上期	下期	通期	上期	下期 (新予想)	通期 (新予想)			
〔売上高〕									
機械加工品	62,195	59,830	122,025	60,309	59,191	119,500	-2.1%	118,650	100.7%
ベアリング関連製品	51,188	48,925	100,113	50,058	49,942	100,000	-0.1%	98,800	101.2%
その他機械加工品	11,006	10,905	21,911	10,251	9,249	19,500	-11.0%	19,850	98.2%
電子機器	73,978	82,325	156,303	76,940	75,560	152,500	-2.4%	169,350	90.1%
回転機器	35,917	40,523	76,440	38,933	39,067	78,000	+2.0%	93,450	83.5%
その他電子機器	38,062	41,800	79,862	38,005	36,495	74,500	-6.7%	75,900	98.2%
流通販売ほか	709	307	1,016	—	—	—	—	—	—
合計	136,882	142,462	279,344	137,249	134,751	272,000	-2.6%	288,000	94.4%
〔営業利益〕									
機械加工品	12,564	9,571	22,135	9,163	9,687	18,850	-14.8%	22,000	85.7%
電子機器	△74	△88	△162	1,013	1,637	2,650	—	2,000	132.5%
流通販売ほか	6	△6	0	—	—	—	—	—	—
合計	12,496	9,476	21,972	10,176	11,324	21,500	-2.1%	24,000	89.6%

主に回転機器部門を当初計画より下方修正致しました。しかし、スピンドルモーター、ファンモーター共に、前年比では売上が大幅に増加しており、特にファンモーターの好調が電子機器セグメントの損益改善の牽引役となっています。また、スピンドルモーターも10月以降、収益が大幅に伸びています。

営業利益については、機械加工品は上期実績と同様の理由で減額修正致しました。

売上高部門別推移・予想

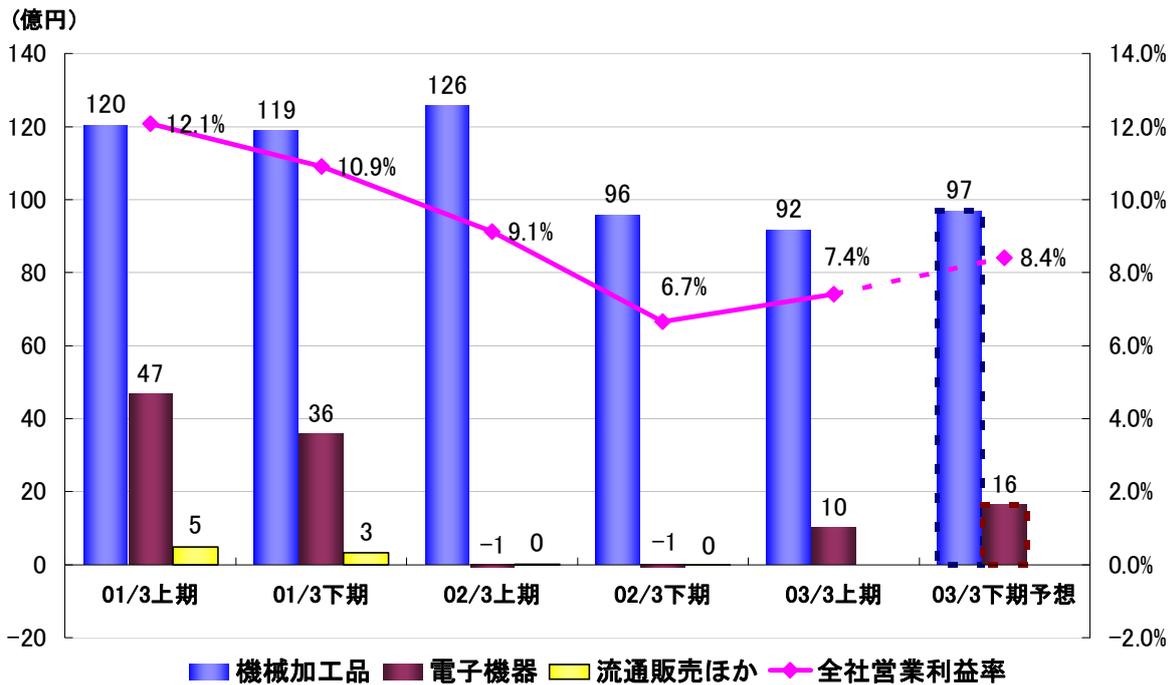


前述の通り、下期計画を下方修正致しましたが、主力製品は10月11月と大変好調に展開しています。

数量ベースでは、10月のボールベアリング販売数量は、第2四半期の1億3,000万個に対して1億4,000万個近くに回復してきました。ピボットアッセンブリーとスピンドルモーターの販売は第2四半期の水準から約3~4割増加しています。

ファンモーターとキーボードも高水準に販売を維持しています。各主要製品とも11月は10月を超える水準の販売を見込んでいます。

営業利益部門別推移・予想



13

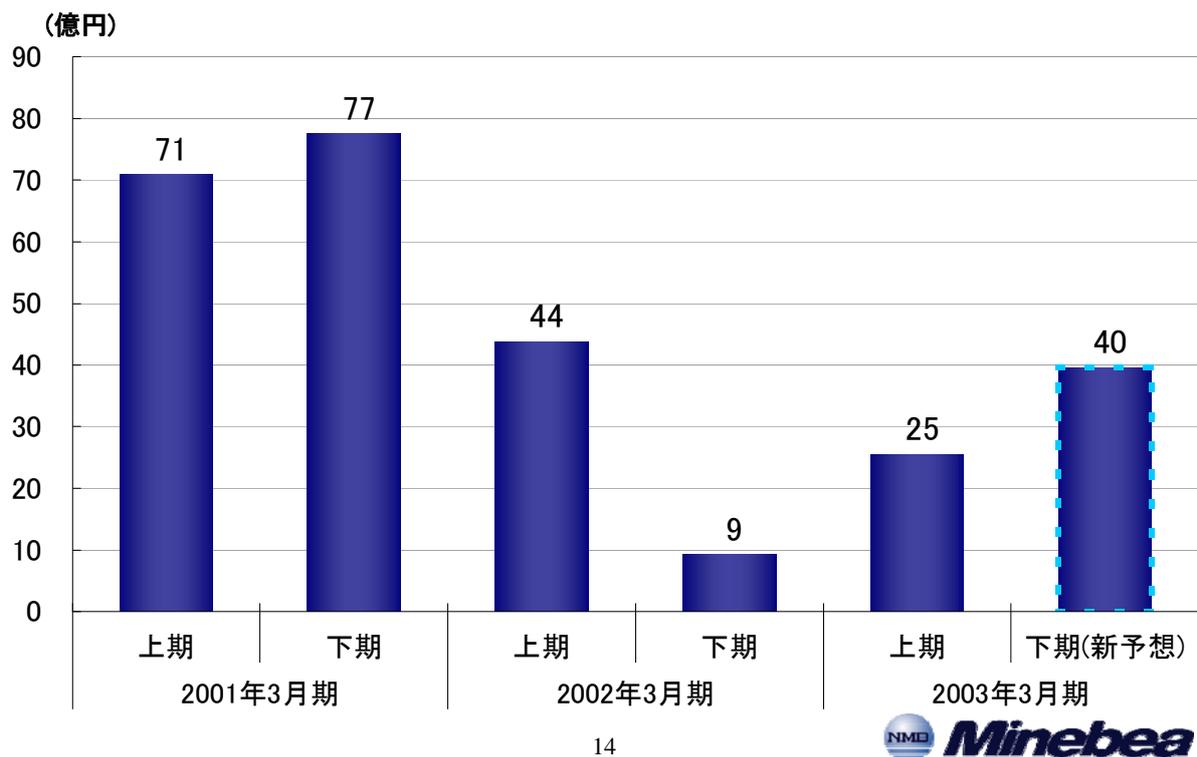


営業利益は、下期は上期から改善する見込みで、営業利益率は8.4%まで回復する予定です。
 鍵となるのは以下の3製品ですが、これらは10月の実績から言って十分に達成可能と見えています。

- ・ピボットアッセンブリーおよびスピンドルモーターの販売増と収益改善
- ・キーボードの利益改善

前年下期を底として、営業利益を必ず回復させて参ります。

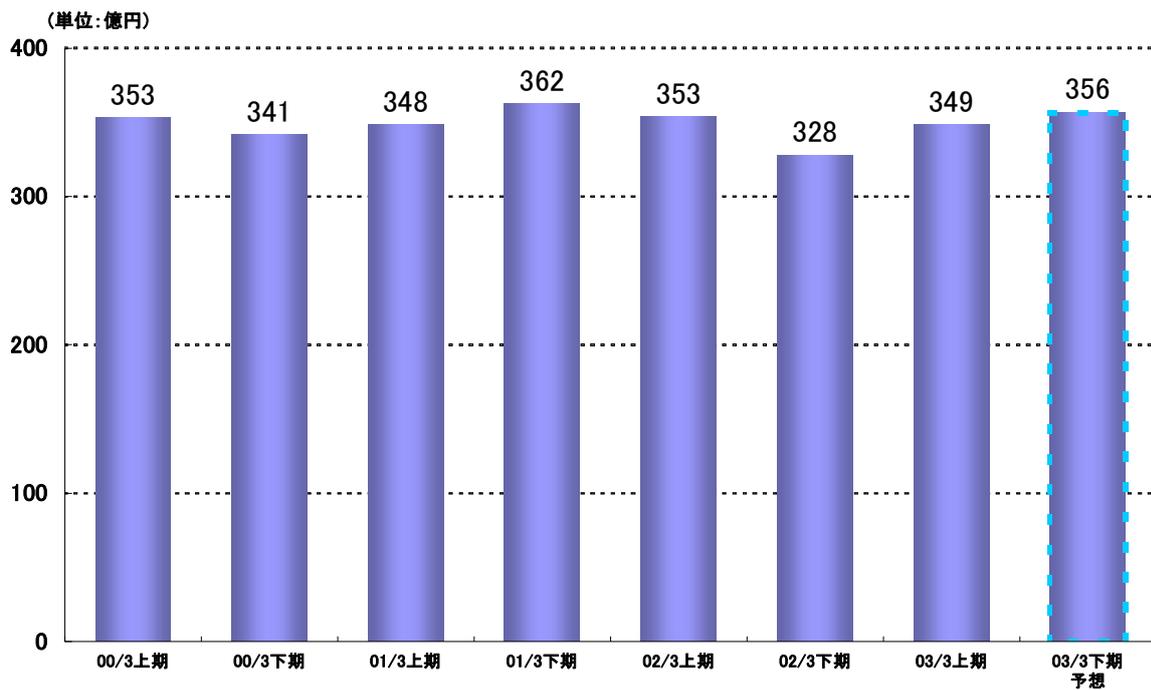
当期純利益推移・予想



下期は特別損失を織り込み済みですが(注)、営業利益の増加と法人税等支払い額の改善により、当期純利益は上記グラフのように前年下期を底に回復していく計画です。

(注)下期の特別損失の見込みにつきましては、別途掲載されております補足説明要旨をご参照ください。

ボールベアリング売上高推移



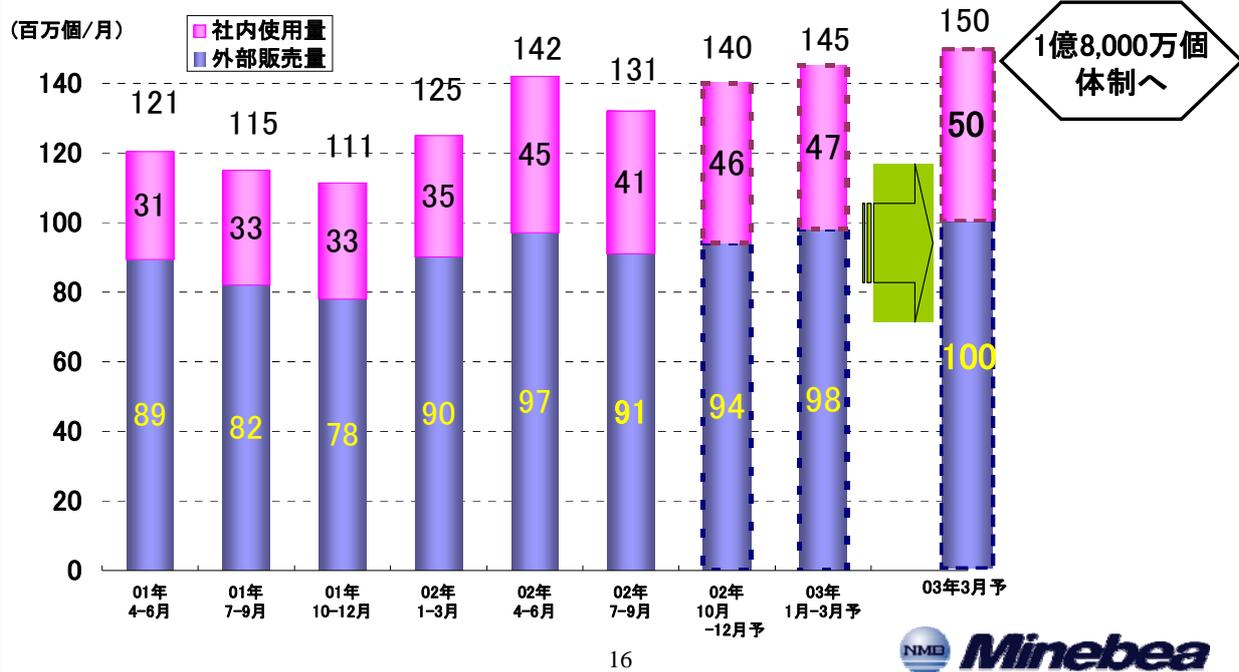
15



下期は上期比2%の増収を見込んでいます。

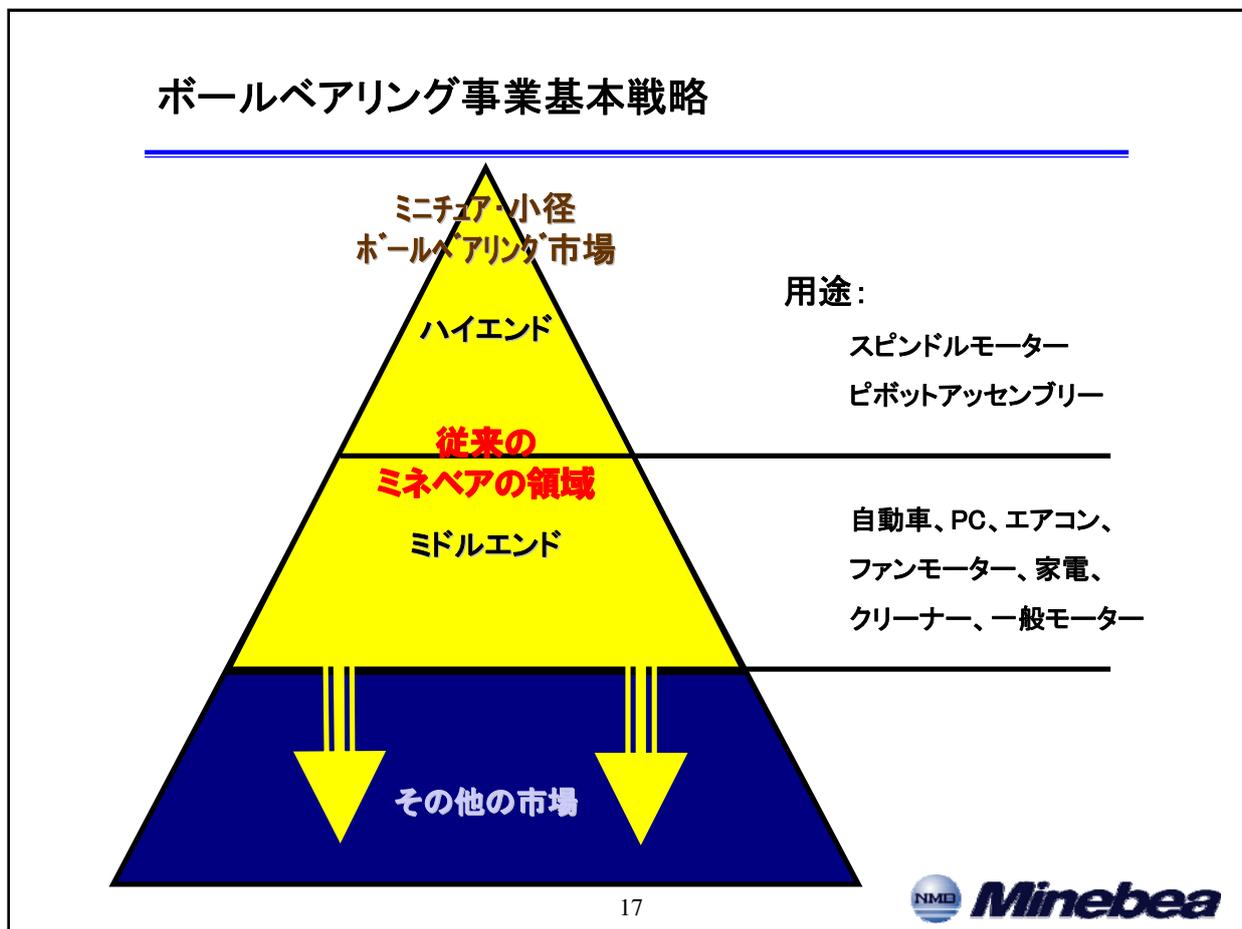
ボールベアリング販売数量推移

ミニチュア・小径ボールベアリング販売数量(月平均)



下期は月平均1億4,300万個、3月には1億5,000万個を必ず達成すべく、積極的に拡販を進めています。ボールベアリングの需要は今後も、中国市場、家電、ストレージ、精密小型モーター、自動車用モーター等に拡大が予想されます。更に、汎用市場が加速的に拡大することも見込んでいます。

ボールベアリング事業基本戦略

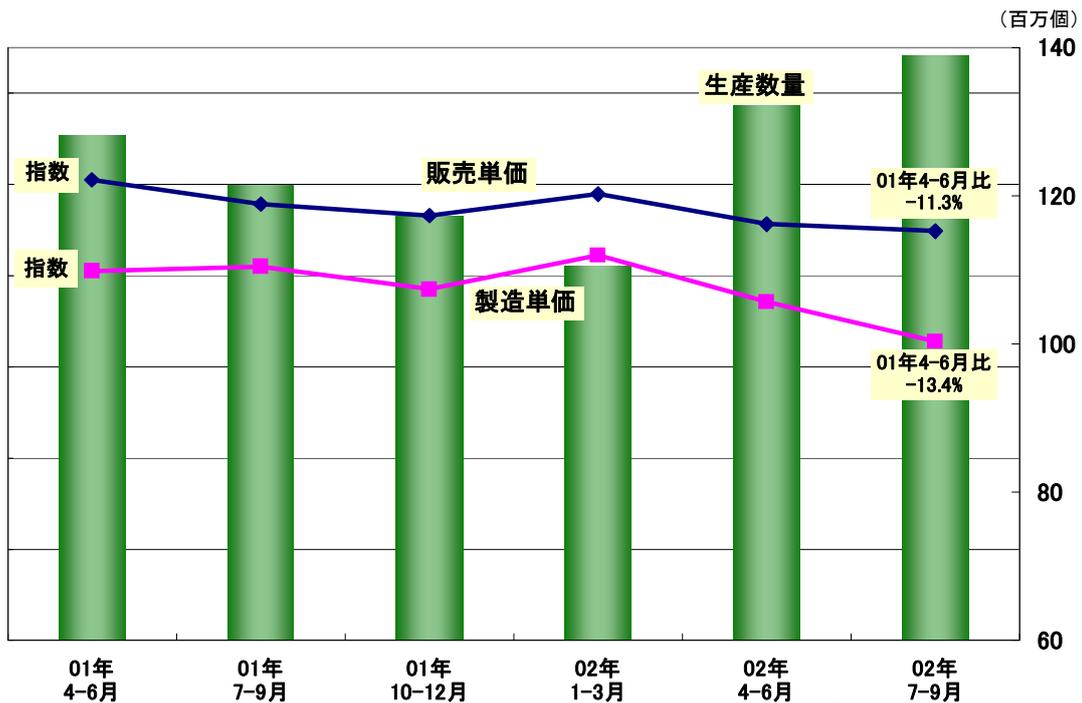


その他の市場(汎用市場)は拡大しつつあります。

そのような中、生産技術の改善や増産によって大きくコスト低減を図れるということが確認されましたので、その他の市場も視野に入れながら、状況を見極めて増産体制に入ることを決定致しました。月産1億5,000万個を1億8,000万体制にするということで狙いを定めています。月3,000万個を増産し拡販する、ということが、下期以降来期にかけての最大の方針です。

ベアリング増産のための工場は、増設、あるいは新設することなく、従来のベアリング各工場のスペースを利用して3,000万個の増産を行います。従い、投下費用は従来と比べて減少しますので、コストに対する影響も大きく出てくると自負しています。様々な生産技術向上の施策により、既存工場を増産する目処は付いています。

ボールベアリング販売単価・製造単価・生産数量の推移



増産により、製造単価は一段と引き下がる傾向になっています。

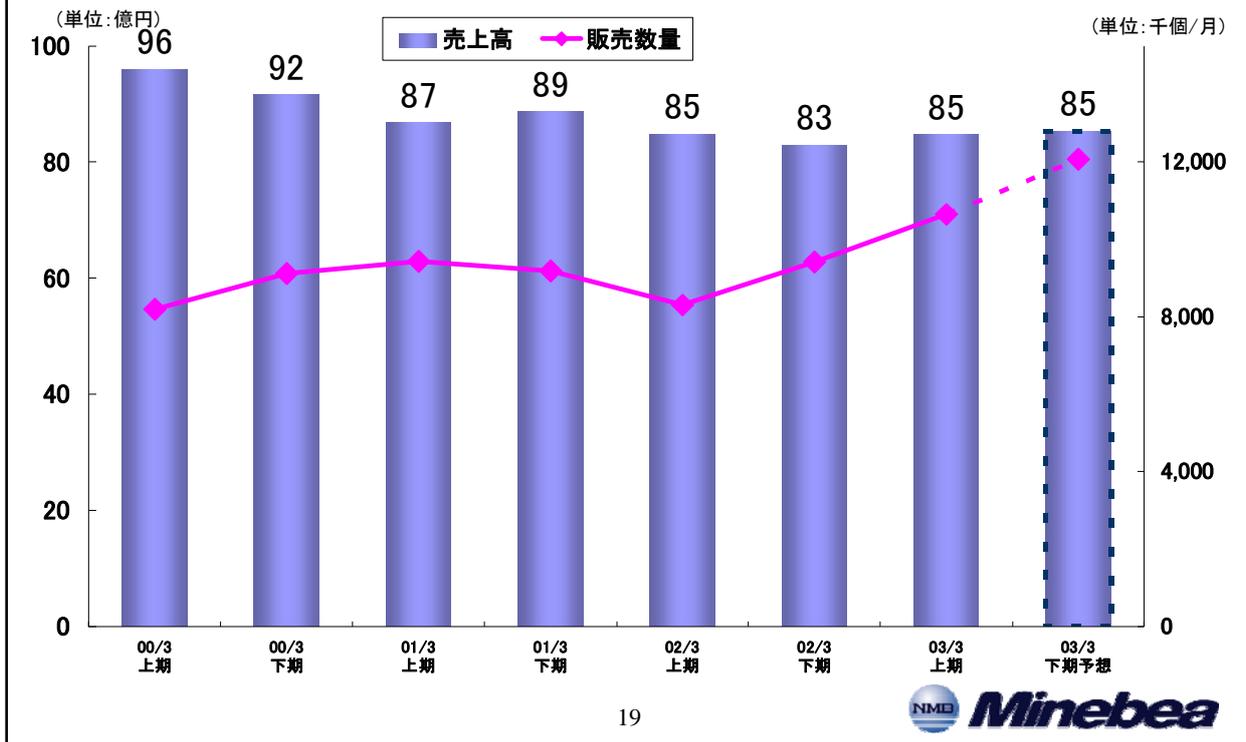
2002年の1-3月は生産が相当数落ち込んだことから、製造単価が若干増加していますが、今日現在は、最近2年間でコスト圧縮のための諸施策を工程間で実施した効果が表れています。

上記グラフの通り、過去1年間で販売単価は11.3%下がったものの、製造単価を約13%以上削減した結果、営業利益率は改善しています。

ボールベアリングはミネベアの最大の収益製品であり根幹をなす製品です。技術と品質、コスト競争力を一層強化し、ミネチュア・小径ベアリングの世界トップメーカーとして基盤を揺ぎないものにして参ります。

ボールベアリングの生産能力増強分として、今期は、全社の設備投資予定額を、従来計画176億円から271億円に上乗せ致しました。

ピボットアッセンブリー売上高・販売数量推移



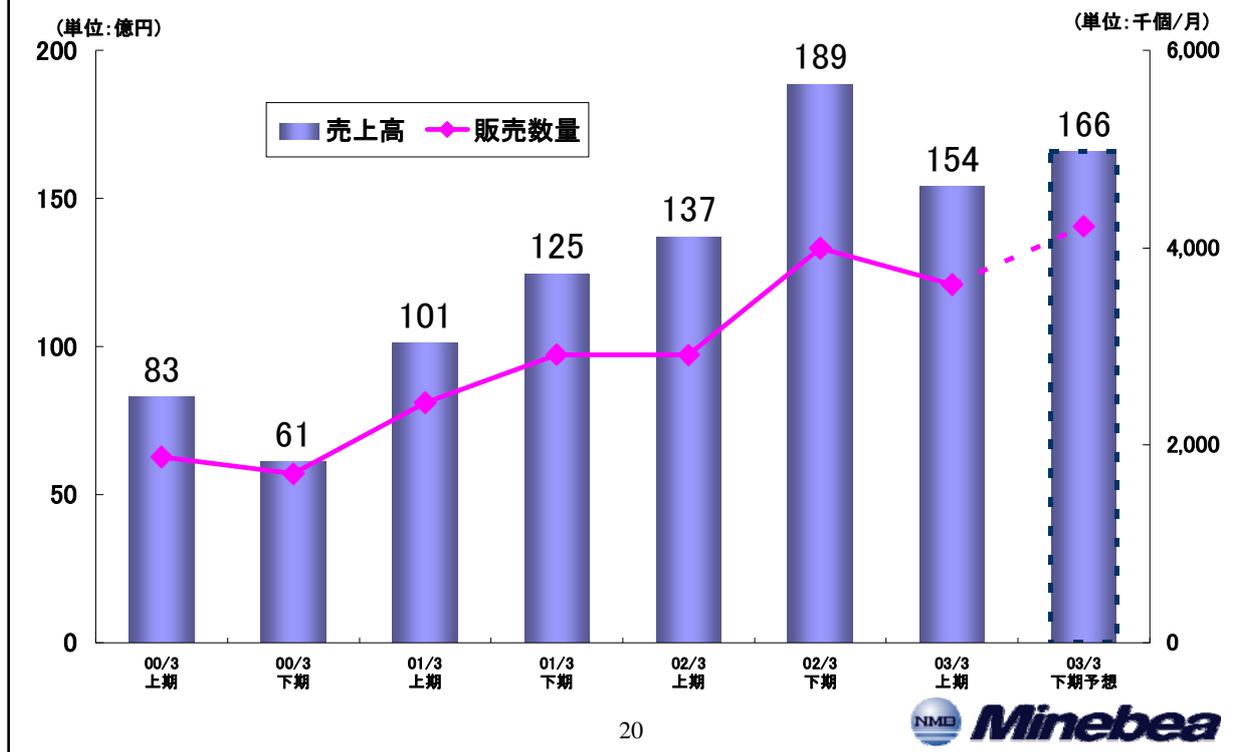
19



販売数量は大きく伸びていますが、市場単価が当初予測以上に下落した一方、第2四半期は生産調整による稼働率低下もあって機械加工品セグメントの足を引っ張る結果となりました。

10月の販売・生産数量は、第2四半期の1,000～1,100万台に対して1,300万台以上まで回復し、11月は更に増える見込みです。下期は、数量増の効果により、販売価格の落ち込み分以上に収益改善が図られる予定です。

HDDスピンドルモーター売上高・販売数量推移



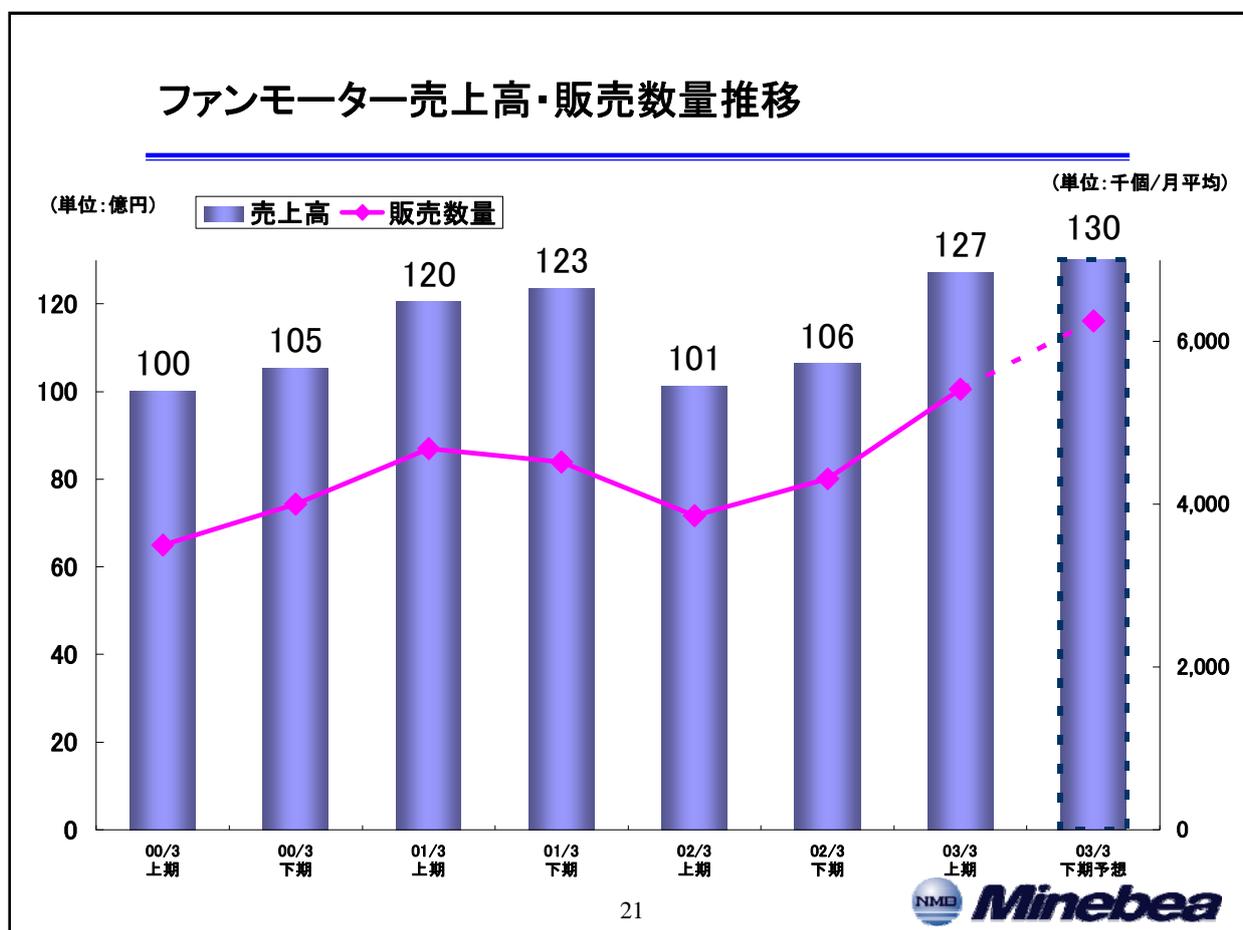
6月に顕著であった主要客先の在庫調整は第2四半期も続きました。しかし、FDBモーター新機種モデル立上げにより、10月以降の数量が大幅に増加しています。

下期の事業計画は、月400～450万台の生産販売で立案致しましたが、最近の実勢としては、第3四半期には月平均450万台、第4四半期には500万台以上に増加する見込みです。

その7～8割がFDBモーターになると予想しており、シェアを挽回する見込みです。

松下電器モータ社向けのFDBモーター部品供給も予定通り進行しています。

ファンモーター売上高・販売数量推移



大変好調に数量が伸びており、第2四半期の販売数量は当社最高の月600万台に達しました。下期は650万台にまで増える見込みです。

特に、第2四半期はゲーム機向けが好調に伸びました。11月までクリスマス商戦関連の販売が引き続き伸びる見込みです。

ファンモーター事業においても、松下電器モータ社との戦略的提携を決定致しました。情報通信機器やデジタル家電向けなどに用途が一層拡大し、且つ多様化すると見込まれます。当社のボールベアリングタイプで有する技術と、松下社のスリーブ軸受使用品の技術により、新たな市場開拓の可能性が生まれてきました。今月から当社軽井沢工場にて共同開発がスタートしています。

主要製品基本戦略

ボールベアリング: 月1億8000万個体制早期実現に向けて拡販及び増産
汎用市場をターゲットに拡販
製造単価の一層の引き下げ及び高利益率維持

ピボットアッセンブリー: 拡販及び増産

スピンドルモーター: 新FDBモデルの増産を成功させ、収益を改善

ファンモーター: 新規案件取り込みの徹底及び収益拡大
松下電器モーター社との共同開発・受託生産開始

ボールベアリングは月1億8,000万個体制への早期実現に向けて、積極的に拡販を推進する体制を整えました。

販売面においては、汎用市場への参入も視野に入れて参りたいと考えます。また、製造単価の一層の引き下げおよび高利益率を維持して参ります。

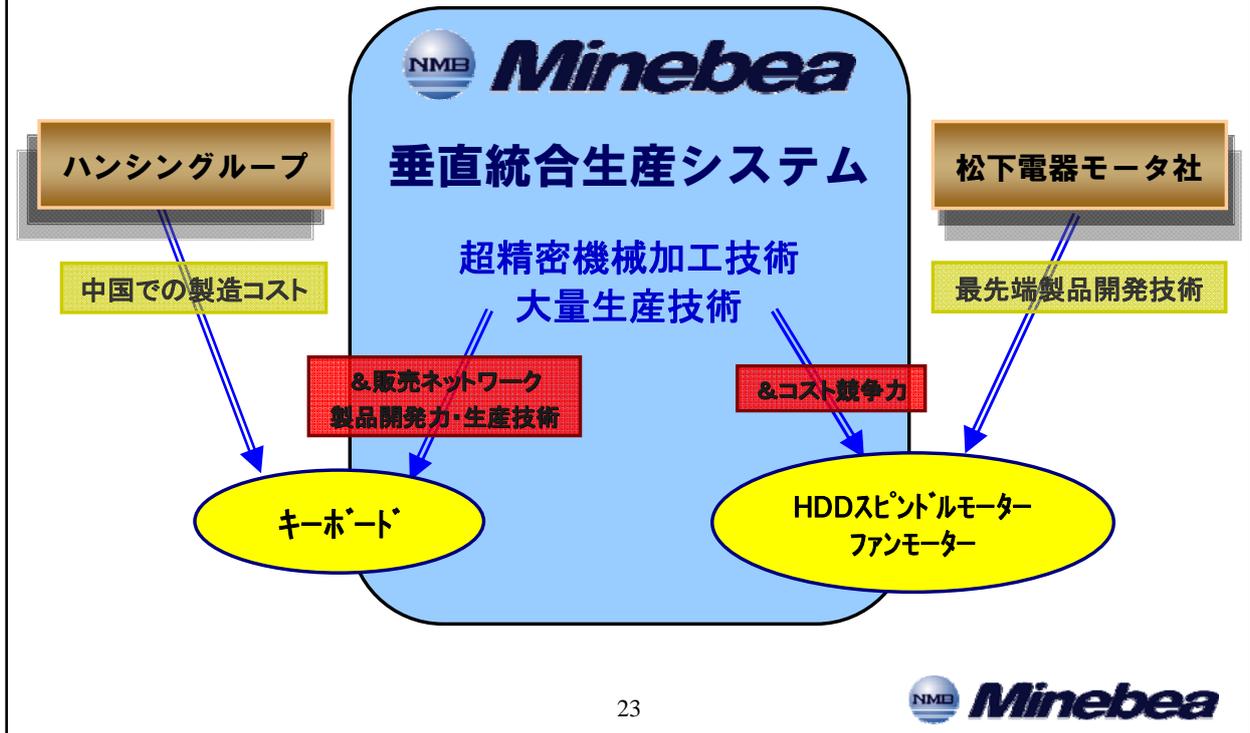
ピボットアッセンブリーの拡販を進めて増産による収益拡大を図って参ります。

スピンドルモーターは、新FDBモデルら確実に軌道に載せ、メインサプライヤーとして地位を強化確立することを目標としています。

ファンモーターは新規案件を取り込み、増産を図り、ならびに収益の改善を更に図って参ります。

また、松下電器モーター社との共同開発および受託生産を、順調に立ち上げます。

世界最強の総合精密部品メーカーへ



超精密加工技術を中心として当社の強みの分野をコアに据えながら、他社との提携も戦略の一つとして、総合精密部品メーカーとしての展開を加速的に推進し、業績拡大を図って参りたいと考えています。

ミネベア株式会社決算説明会

<http://www.minebea.co.jp/>

上記説明会で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。
実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。
実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。